

# 平成 24 年度 高浜市「防災ネットきずこう会」活動報告書



津波避難訓練の様子（平成 24 年 11 月 24 日）

**[主催]**  
**高浜市**

**[企画・運営]**  
**特定非営利活動法人レスキューストックヤード**

# 目 次

目的・対象・日程と事業の概要等 .....	3
①キックオフ講演会 「地域の防災力を高めよう！」 .....	4
②ワークショップ・事前まち歩き学習の記録 .....	6
③津波防災訓練の実施 .....	9
④高浜市「防災ネットきずこう会」事業成果報告会 .....	16

【目的】東日本大震災の極めて厳しい現実を見せつけられた現状の中、この地に警戒される南海トラフ地震において、いかに「いのち」と「暮らし」を守るかが問われている。その主役は行政ではなく、「市民自身」である。特に昨年度末に中央防災会議専門調査会が発表した被害想定では、高浜市にこれまでの想定を超える津波の襲来と震度 7 の揺れの予測が加わった。もはや地震対策は待ったなしの状況と言えるが、単に市民に不安をあおらせるのではなく、正しい情報提供の中、真に必要な対策を住民自身が考え、それらを着実に実行していくため、場当たりの単発事業ではなく、じっくり腰を据えて多年度にわたりじっくり本事業を実施展開していく。

【対象】市域全体（5 小学校区）およびその内のモデル地区（南部を予定）

【日程・事業概要】

月	内容	講師等
6 月	キックオフ講演会 ※過去の災害現場の実態と対策のポイントについて概観する。	RSY 栗田
7 月	ワークショップ（市域全体） ※DIG で明らかになった地域の課題を出しあう。	RSY 栗田および WS ファシリテーター 5 名（市職員）
8 月	ワークショップ（市域全体） ※地域の課題に対する解決方法を考える。	
(9 月)	事前まちあるき学習	
11 月	津波避難訓練（モデル地区） ※安否確認・要援護者対策等を含めた津波避難訓練を実践する。	RSY 栗田および WS ファシリテーター（訓練補助者）5 名（市職員）
12 月	ワークショップ（モデル地区） ※訓練の振り返りと地域行動計画を協議する。	
2 月	ワークショップ（モデル地区） ※地域行動計画を協議し、まとめる。	
3 月	活動報告会（市域全体） ※実践者によるパネル形式の報告と名大・福和教授の講演	名大・福和教授

[企画・運営]

特定非営利活動法人レスキューストックヤード（栗田・加藤）

〒461-0001 名古屋市東区泉 1-13-34 名建協 2F

TEL:052-253-7550 FAX:052-253-7552 E-mail:info@rsy-nagoya.com

## ① キックオフ講演会「地域の防災力を高めよう！」

日時：6月25日（月）19:00～21:00

場所：高浜市役所4階 第2会議室

### ■キックオフ講演会

「地域の防災力を高めよう！」

講師：レスキューストックヤード

代表理事 栗田暢之



今年度の取り組みの中で、阪神・淡路大震災以降 17 年間でみてきた過去の被災地の事実をお伝えし、結果として皆さん自身で何に取り組んでいくかを決めていってほしい。防災は行政や NPO だけが頑張っても仕方ない。地域の人を中心となって取り組んでいくことが最も重要となる。

東日本大震災の被害はあまりに広大で、今もきびしい状況が進行形で続いている。その中で、震災関連死も増えている。阪神・淡路大震災の震災関連死の 9 割は 60 歳以上であった。また、自殺者も増えている。今回は福島原発問題もあり、状況は個別化・複雑化している。災害はその瞬間だけでなく復興の過程でも命を守っていかなければならない。

歴史を振り返ってみると貞観地震（869 年）の 9 年後には今でいうところの首都直下型、18 年後には南海トラフ地震が起きた。今回それと似ていることから、私たちの地域にもいつ大きな地震がきてもおかしくないと言われている。

阪神・淡路大震災の教訓から、コミュニティ

一ごとに仮設住宅に入るべきだということを書いてきたが、今回はそれが実現できなかった。そのために、なかなか外にでられなくなってしまった人達がたくさんいる。仮設住宅は災害救助法では 2 年の入居期限となっているが、厚労省からはもう一年延長という通達が出された。仮設住宅から早く引っ越しできる人たちはお金のある人がほとんどで、弱い立場の方が残されていく。そんな人達への息の長い支援が必要だ。このような風景にならないよう、私たちは今からでもできることがあるはずだ。しっかりと過去の災害から学ぶ必要がある。

「釜石の奇跡」と言われている釜石東中学校の学生たちの行いは、ハザードマップの情報にとらわれず、さらに高台をめざし、小学生や近隣住民を引き連れて逃げたことで全員の命を助けることができた。まさに「想定にとらわれるな・最善をつくせ・率先避難者たれ」という言葉通り動いたのだ。これにならって、「ひとりひとりが意識して逃げる」という訓練を高浜市では取り入れてやっていきたい。

東日本大震災が「想定外」と言われたため、学者たちが新想定を出した。3 連動ではなく 7 連動という想定だ。実は南海トラフは台湾までつながっていて、これが一気に起こるかはわからないが、台湾で研究を続けている先生によると、46 億年の地球の歴史の中で絶対に起こらないとも言えない。今回の想定は「万が一くるかもしれない」「万が一にも起きた場合にはこうなる」というものである。

高浜市は津波 2.6m から 3.1m に変更になった。対策をきちんすれば逃げられるはずだ。しかしその前にまず揺れる。高浜は予測震度 7、これは阪神・淡路大震災の揺れと同様クラスである。直下型と海溝型は揺れの種類が違うので、1~3 分揺れると言われている。まずはその時点で身をまもらなければ、津波から逃げることもできない。非常

に厳しい現実として、阪神・淡路大震災では家具の転倒による死亡が80%以上である。火事で逃げられなかったのは家具に挟まれたからである。

私たちの住む濃尾平野はもともと地盤が緩い土地である。高浜も埋め立てている場所が多く、100年前は海だったという所に今は建物が建っている。猿投高浜断層の直下型地震もあなどれない。つまりどこで地震がおきてもおかしくない状況である。しかし調査結果によると、私たちの防災意識は高まっても、具体的な備えなどの防災行動についてはそれほど高まっていない。これからの時代を担っていく若い世代の人達が緊急時に助け合える、我慢できるように、過去の災害を経験した年配の人達からきちんとお話を聞いて、対策をしていかないといけない。そういったことが訓練でも実施されないのは、危機的状況かもしれない。どの災害現場に行っても、子どもを失った親にかける言葉はみつからない。どうすればこのような悲しみから子どもたちを守ることができるのか。今の日本で誰が子どもたちに防災教育をしているのか。これからの10年でしっかり対策をして、地域で子どもをまもる防災教育が当たり前の世の中にしていかなければならない。どれだけ頑張っても行政も被災した中では駆けつけることはできない。住民同士が助け合わなければならぬ。地域力が問われている。限られた時間の中で助け合えるのは学校や職場を含む地域である。その時「初めまして」と言っていたのでは遅い。消火器やAEDの場所をあらかじめ知っておくなど日常の取り組みが緊急時に活かされるはずだ。

地震だけでなく、豪雨災害も年々増えている。温暖化の影響などで台風が巨大な勢力を保ったまま日本に近づくようになる。これから水害の季節になるので警戒が必要だ。今生まれた子どもが大人になる頃、地球は大変な状況になるかもしれない。避難勧告を出すのは行政だが、逃げる・逃げないを自分達で考え、決められるようになってほしい。誰のための避難なのか、今一度考え直して

いかなければならない。

人ひとりのいのちを守るためには、その人を取り囲む地域が連携していくと上手くいく場合がある。行政は縦割りだからそれが難しい。おせっかいな人が多いまちは救われるはず。新旧住民の交流ができる工夫も大事だ。

実際の災害現場は想像以上に厳しいものになる。災害対応は行政だけでは限界で、住民の参加が不可欠だ。いかに地域の資源をまきこんでいくか、地道に、丁寧に、が基本となる。

## ② ワークショップ・事前まち歩き学習の記録

### ■ワークショップ（2012年7月30日）

自分の地域の強み・弱みを考え課題を整理するワークショップを5つのまちづくり協議会にわかれて行った。

項目	南部まち協	吉浜まち協	翼まち協	高取まち協	高浜まち協
自宅の安全	3.0	3.0	3.7	2.9	2.9
備蓄	3.5	2.5	3.0	2.8	2.6
避難	3.8	3.2	3.7	3.8	3.8
避難所	3.0	2.6	2.8	2.6	3.1
災害時要援護者	2.9	2.8	2.7	2.7	3.3
地域コミュニティー	3.1	2.5	3.0	2.8	2.6
火災	4.3	3.6	2.8	3.6	3.3
情報	2.9	2.4	2.5	2.3	3.1
津波	3.9	3.2	-	2.7	3.4

地域の課題掘り下げ「私たちの地域は〇〇なので△△について改善していく必要がある」

#### □南部まち協

- ・災害時、要援護者の把握と情報開示の必要がある。
- ・災害時伝言ダイヤルや災害伝言板を試した人が少ない、試すよう PR の必要あり
- ・避難所の運営の方法を確認していない。確認する必要がある。
- ・古い木造住宅が多い。耐震補強の必要がある。

#### □吉浜まち協

- ・防災意識が低いので、地域コミュニティを巻き込んだ防災意識の改善が必要である。
- ・古い町並みが多いので、火災対策や建物の倒壊の危険管理の改善が必要である。
- ・企業が多いので企業のストック備品の有効活用とその仕組みづくりが必要である。

#### □翼まち協

- ・避難所運営について知識がないので、避難所運営の方法について改善していく必要がある
- ・要援護者の状況について知らないので要援護者の支援の方法について改善していく必要がある
- ・情報伝達の方法に課題があるので、地域での連絡方法について改善していく必要がある
- ・緊急時に地域の住民同士で救出・救助することに課題があるので、住民同士での救出・救助について改善していく必要がある

#### □高取まち協

- ・情報の指揮・命令について改善していく必要がある
- ・行動するための基準について改善していく必要がある
- ・避難所の開設について改善していく必要がある
- ・備蓄に対する個人の意識について改善していく必要がある

#### □吉浜まち協

- ・個人の備蓄が少ないので、地域の備蓄を・個人の備蓄を増やす必要がある
- ・避難所・備蓄倉庫が安全に建っていないので、安全な建物にする必要がある
- ・要援護者名簿を理事までが持っているが班長まで持つ必要がある
- ・自分の身の周りに要援護者を含め、どんな人が住んでいるか判らないので情報を共有する必要がある

### ■ワークショップ（2012年8月27日）

地域の課題に対する解決方法について、平常時における地域防災向上「活動プログラム」をまちづくり協議会毎に考えた。【別紙①参照】

■事前まち歩き学習（2012年9月24日）  
 碧海町・田戸町を実際に歩き、危険箇所、堤外地、水門、高台など訓練のポイントとなる場所を地図を見ながら歩いて確認した。



■ワークショップ（2012年12月13日）  
 高浜市「防災ネットきずこう会」モデル地区WS  
 ●「津波避難訓練」振り返り

レスキューストックヤード代表理事 栗田暢之  
 当日集計したアンケートを見ると、自宅を出るまでに碧海町で平均16分。田戸町で平均14分かかっていた。今回の避難想定では、電気を使用不可としたが点灯してしまった方も多数いた。実際に震災が起こったとすると、3分の揺れ、暗い、家具や小物が散乱している可能性がある。また、自宅から避難所まで、碧海町で平均17分。田戸町で平均7分かかっている。実際には、液状化や時間帯などによっては、今回の避難ルートが使えない場合もある。実際に地震が発生した場合、今回の平均時間の倍はかかると思われる。1時間以内

の避難を考えると、訓練時に時間を短縮させておく必要がある。特に自宅を出るまでの時間は、短縮ができるはずである。

避難訓練の様子を見てみると、ひとりのご老人がお疲れになったのか、座り込む姿が目に入った。後ろからは避難場所へ急ぐ人が歩いてきており、ご老人を追い越し先に行かれた。今回は訓練であるから通り過ぎたのかもしれないが、実際に津波が来るという状況になった場合でも、通り過ぎてしまうのであろうか。今回の避難訓練では、ご高齢者の参加も多く、車いすの方も参加されていた。ご自身の命を守った上で、災害時要援護者をどう支えていくのかを今後も考えていってほしい。

家庭や地域で一人ひとりの命を守るヒントが、今回の避難訓練参加者の声から読み取れる。ぜひこの声を参考に、それぞれの地域に向けて発信してほしい。

#### 避難訓練に参加した受講者の感想

- ・のんびりと避難する方が目立った。
- ・外灯がついており明るかった。
- ・緊迫感がなかった。
- ・田戸町の避難場所が狭い。
- ・小学生の参加が目立った。顔ぶれを見ると夏に石巻に交流へ行った子が多かったように思う。
- ・暗い中でどう避難者を見分けるのか。
- ・防災意識が高いと感じた。
- ・津波避難に特化した訓練でわかりやすかった。
- ・炊出しの実践ができてよかった。
- ・液状化になったら、車いすを押して逃げられるのかわからない。
- ・災害時要援護者も自身で手助けが必要だと発信する仕組みが必要。
- ・家族総出で参加や外国人の参加もあり、よかったと思う。
- ・今回は、訓練前に災害時要援護者を手助けする人を決めていた。実際には決まっていなかったが、今後検討する必要がある。
- ・避難先には、屋根も何もないことを知っておか

ないといけない。

### ●町内会別グループワーク

碧海町、田戸町に分かれ、「揺れ」「火災」「津波」「避難」の4項目への備えについて、特に重要だと思われる要素を協議し、発表し合う。

#### 碧海町

##### 「揺れ」に備え対策しよう

- ・家具固定（L字、チェーン等）
- ・家具の配置に気をつける（特に寝る時）
- ・家屋内での避難経路を確保し、物を置かないなど工夫をする

##### 「火災」に備え対策しよう

- ・ブレーカーに紐をつけて、誰でも手が届くようにする
- ・逃げ道に消火器を配置する

##### 「津波」に備え対策しよう

- ・複数避難ルートを決める
- ・家族間でそれぞれ何処へ逃げるのかを話し合う
- ・自宅、会社など様々なケースを想定する
- ・津波警報がでたら高台避難を日頃から周知する

##### 「避難」に備え対策しよう

- ・飛散防止フィルムを貼り、暗い中でも足元の安全を確保できるようにする
- ・避難時が携帯ラジオを持参する

#### 田戸町

##### 「揺れ」に備え対策しよう

- ・枕元に懐中電灯、靴、スリッパを置く
- ・非常持出袋はいつも持出易いところに置く
- ・耐震化、家具止めをする
- ・ガラス飛散防止フィルムは貼る

##### 「火災」に備え対策しよう

- ・消火器を各世帯に常備する
- ・まちづくり協議会保有の消火器の位置を地域に発信する
- ・風呂水は一晩溜めておく
- ・ブレーカーを落としてから避難する

##### 「津波」に備え対策しよう

- ・高台への避難を周知する

→床屋に高台マップを置き実践している

- ・〇m、こっちへ避難などの案内板が必要
- ・東へ行くにつれて高台となるため、東へ逃げることを周知する

##### 「避難」に備え対策しよう

- ・避難ルートを検討する

- ・各家庭で独自の持出袋を考える

→常備薬やオムツなど各家庭に必要なものを選び、避難時に持参する

- ・旗などを玄関先に立て、手助けが必要なお宅を可視化する



#### ■ワークショップ（2013年2月19日）

訓練の結果をまとめた地域行動計画についての意見交換を行った。※参加者の意見を取り入れて完成した地域行動計画は別紙②参照



### ③ モデル地区「南部まち協」津波防災訓練の実施

日時：2012年11月24日（日）

場所：高浜市碧海町・田戸町

参加者：400名

#### ■訓練のねらい・特徴

- ・ 「寒い早朝」「薄暗い」「雨」という厳しい想定での訓練を試みる。
- ・ 「避難判断から避難行動」までの所要時間やその間の課題を検証する。
- ・ 「地域での助け合い」がどの程度可能なのかを検証する。

#### ■地震の想定

2012年11月26日（土）午前5時00分、高知県沖合いから駿河湾を震源とするM9.0の巨大地震が発生しました。東海・東南海・南海地震だと考えられます。高浜市は一部で最大震度7を記録したほか、市内の大半が震度6強を超える非常に強い揺れを記録しました。市街地全域でガス、水道、電気の供給が停止し、一部の地域では電話がかかりにくくなっています。各地で火災や建物の倒壊が多数発生し、死傷者も多数発生している模様ですが、詳細については情報が混乱しており不明です。また、大津波警報が発令され、地震発生から約60分後の午前6時過ぎには3m超級の第一波が到達するとの予測が出されました。

#### ■実施概要

- ① 訓練参加者は各自で一律午前5:00にアラーム（目覚まし）をセットし、その時点が地震発生想定とする。
- ② まずは身を守り、家族の安否等を確認する。
- ③ すぐに避難の準備をはじめ（簡単な身支度、非常持ち出し品、防寒・雨対策、履物など）。
- ④ 家族や隣近所で避難に援助が必要な要援護者を迎えに行く。
- ⑤ あらかじめ決めておいた避難場所に避難する。

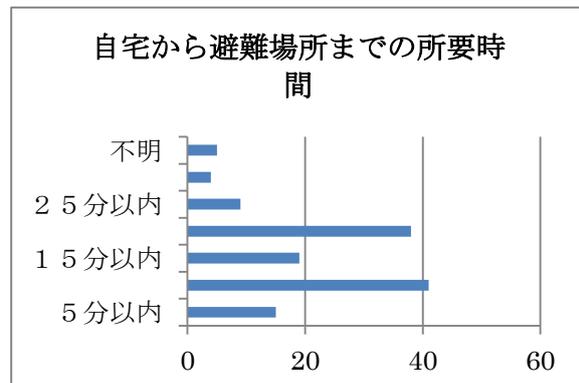
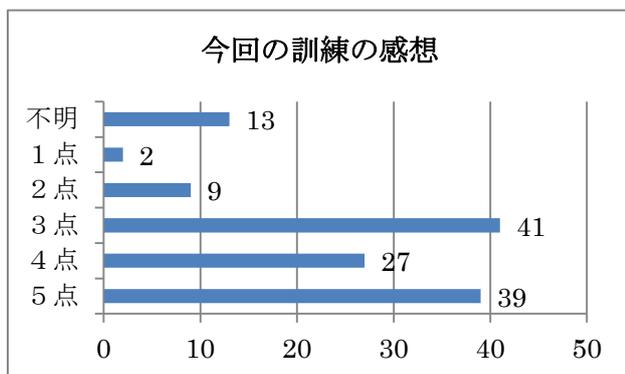
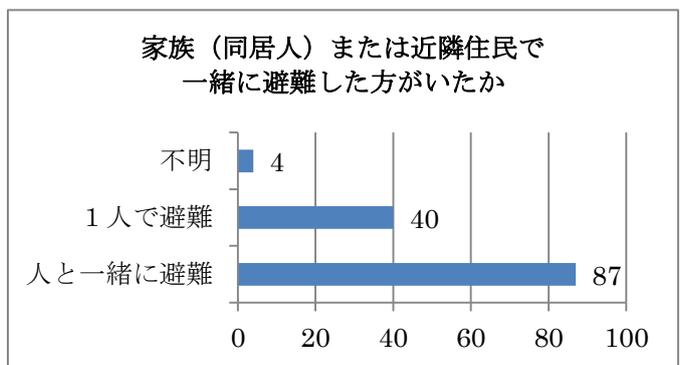
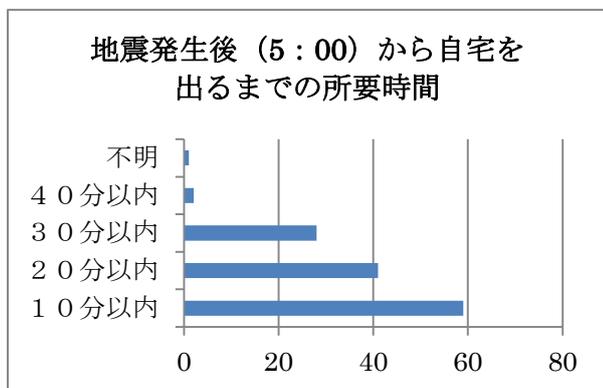
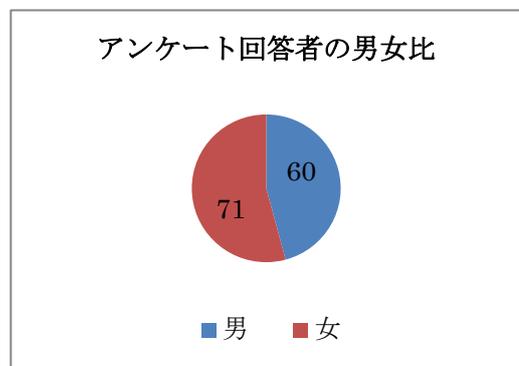
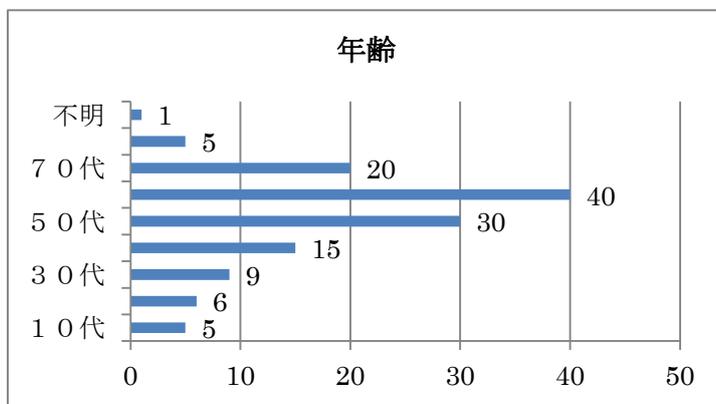
以上の避難行動について、所要時間をその都度チェックし、6:00までに避難が完了するかを確認する。また問題点や課題を出し合う。

#### ■タイムスケジュール

時間	内容	特記事項
5:00	① 地震発生（3分間の烈震）	それ以前に起床し諸準備することは禁止
～5:10	② 身を守り、家族の安否確認	今回は揺れの被害は軽微であったとする
～5:20	③ 避難の準備	電気・水道・ガスの使用は禁止
～5:40	④ 要援護者対応	何人を対象にするかは任意
～6:00	⑤ 避難	要援護者がいる場合は同伴、懐中電灯等必要
6:00～7:00	避難完了の報告・振り返り	RSY作成の設問に数名ずつに分かれて回答する
7:00	あいさつ・終了	

2012/11/24・高浜市・津波避難訓練【碧海町の報告】

アンケート回答者数：131名（男60名・女71名）



●自宅を出るまでの課題（停電の中での対応や家族等との声掛けなどで感じたこと）

- ・ブレーカーを落とす。
- ・戸外に出られるように避難口を確保する。
- ・暗くて非常持ち出し袋が見つげにくい／必要な物の置き場が分からない／転ばないようにした／着替えに時間がかかった。
- ・支度に思いの外時間がかかった。
- ・電気がない状態での身支度が大変だった。
- ・家族全員の部屋に声をかけることの大事さ。
- ・火の始末。
- ・近眼(眼鏡要) の為、停電時に出るのが困難
- ・2 Fに懐中電灯が無かった為、階段が怖かった。
- ・懐中電灯を枕元に置いておく事
- ・懐中電灯の明かりだけだと見にくい
- ・通路に物があり足元が少し危なかった。
- ・荷物は1つにまとめる、決まった所に置く
- ・周りに物が沢山あり、倒れたりしたら怖い。
- ・予定されていたことなのでスムーズにできた。
- ・非常時の照明の確保がとても大変
- ・眼鏡、財布、電話など、置き忘れた
- ・一人で来たので不安だった。
- ・大声で安否確認。冷静に行動するよう心がける
- ・訓練なので、前もって準備していたが、実際になつたらわからない
- ・家を出るだけで貴重品の確認ができなかった。
- ・声掛けがなく、訓練がないのかと思った。
- ・油断しない。
- ・2人などでスムーズにできた。
- ・つい電気をつけてしまった
- ・足元にライトがあると、暗くても OK
- ・なかなか寝ていると起きない
- ・子供の準備
- ・携帯のライトが十分役にたった。
- ・慌てない様にする
- ・一人一個の懐中電灯が必要

●避難場所に到達するまでの課題（危険と感じた箇所や出来事、移動距離の長さなど）

- ・裏の土砂くずれが心配
- ・倒れた家屋が多く発生する。
- ・早朝で、あまり声かけができなかった。
- ・思っていた以上に歩くと長く感じた。
- ・危険はなし。
- ・歩道が狭いので危ない（1人しか通れない）
- ・遠回りしたり国道を渡る時注意が必要。
- ・高齢者と一緒なので歩く距離が遠くて大変
- ・移動距離が長い為、足の悪い老人・子供が疲れた、足が痛いなどの課題。
- ・坂が少しきつい
- ・移動距離が長い（遠回り）
- ・実際にはもっと近い所へ行く
- ・本当に1時間の余裕があつていいのか？
- ・坂が多く、車いすを押すのに大変だった。車いすに乗っている人の身になって歩行をする
- ・車いす移動は坂が急で疲れる。一人では無理
- ・廻り道で津波の恐怖で歩く速度も遅くなると思うと、なるべくなら家の近くの道を通りたい
- ・細い道が多く逃げるのに時間がかかる
- ・神社に入る道が複数あり、危ない道もある
- ・工事をしている横を通り、足元が危ない。
- ・ペットをどうしたらよいか？
- ・近道が出来ず、大廻りになってしまった。
- ・高い塀が多い。
- ・途中で声を掛け合うように
- ・早朝だったので寒さ対策
- ・今回は車の台数が少なかったが、実際は？
- ・一度低い所をってから高台に上がる事がいいかどうか。
- ・荷物が重い
- ・いつもの散歩道なので安心
- ・あおみ公園の角の十字路、道がたわんでいる。
- ・碧海町5丁目の為、大変遠いと感じた。
- ・高台に達するまで時間がかかるので、もう少し急いで歩く必要があると感じた

## ●災害時要援護者への対応をした場合の課題

・狭い道が多いので、家が倒れた等の場合、危険が多い。助けるのも大変かな。

- ・あいさつ
- ・ご苦労様の一言
- ・段差が気になった。
- ・車イスの場合は、移動するのが大変
- ・坂が多くあり車いすを押す人が一人では大変
- ・個人の力のみでは困難、チームを作るべき
- ・人手が足りるのか？
- ・今回は足の悪い方でしたが、病気の方だとどうだろうか？
- ・近所の人（一人暮らし独居）に声掛けした
- ・道路は思った以上にスムーズだった。
- ・特に車いすの方への心配り
- ・小さい子の手を引かないといけないので、一緒に行けないと思う。声掛けだけはした方がよい。
- ・早朝からご苦労様です。
- ・声掛け

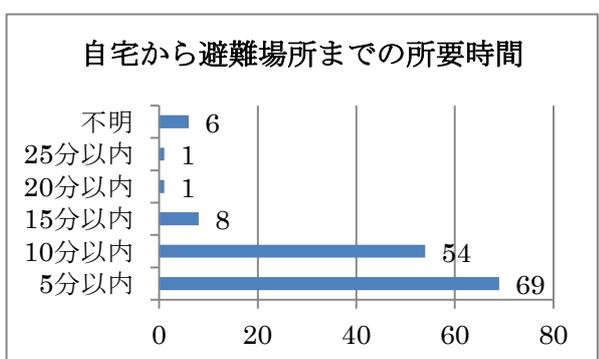
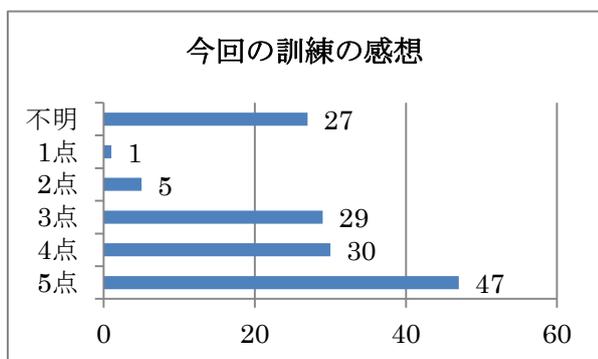
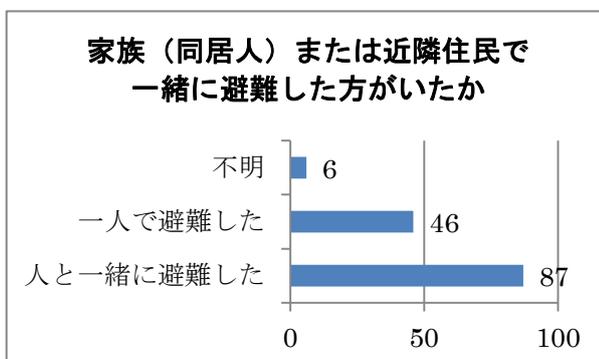
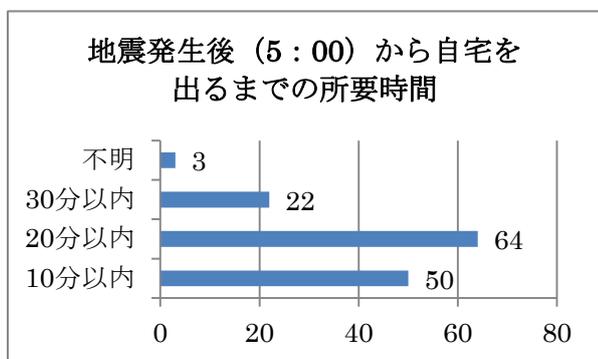
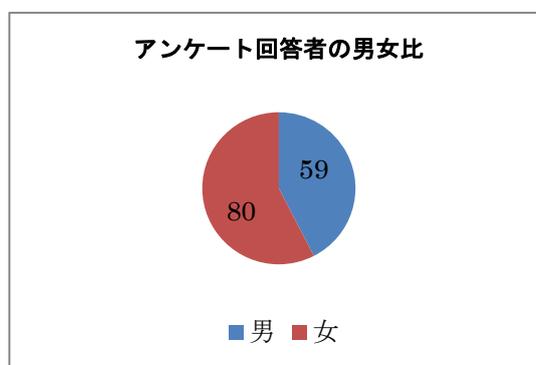
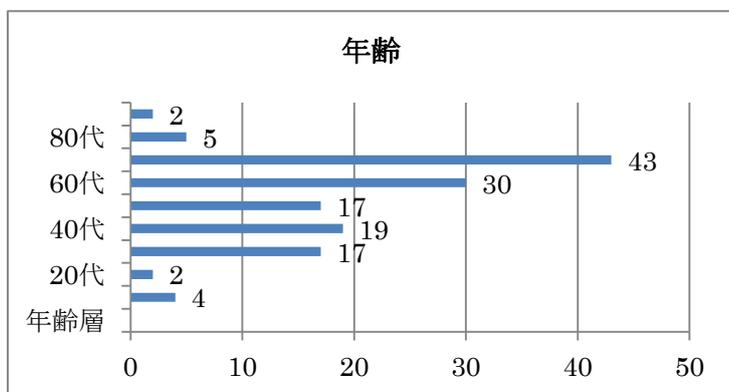
## ●その他、全体を通して感じたこと

- ・事前にいただいた資料の集合時間が誤っていた。
- ・あらためて日頃の準備をしたい。
- ・地震発生や避難のアナウンス等をしてほしかった。訓練しているのがあまり分からなかった。
- ・ポイントポイントで案内の方がいて助かった。
- ・少し遅い時間にしてほしい
- ・防災意識が高い方が多くてびっくりした。
- ・家の中に何が何処にあればいいのか、逃げるときにどのような格好が適しているのか考える機会になって良かったと思う。
- ・歩いている時は家族だけだったので、あまり参加者がいないのかと思ったが、結構たくさんの方が参加していたのでびっくりした。
- ・初めての参加で、意義があると思った。
- ・家を出るまでに少し時間がかかりすぎた。
- ・サイレン等鳴らさないと実感が出ない。
- ・暗いので大変だと思った。

- ・訓練の為危機感がなかった。パトカーとか回ってもっと訓練の時の危機感があつた方がよかった。
- ・アンケートの調査内容等を事前に提出して、避難時に調査状況を調査確認するように様にしたら
- ・すぐくためになった。
- ・5時に行動はリアルによかったと思う。
- ・実際にはどこをどの位の人が通るのかで次の対処が出来たのでは？
- ・実際に来た時に本当に対応できるか。
- ・避難をする場所（目標）を知っておく事が大事
- ・訓練は必要だと思った。
- ・今回ペット室内犬2匹は置いてきたが、実際の場合、2匹は連れて来られるかが課題。
- ・条件を変えて度々訓練に参加できたらと思う。
- ・本当に津波の時は、てんでばらばらでないと間に合わないと感じた。
- ・色々な事を気付かせてくれる訓練でした。
- ・発生する時期がわからないので、雨天等に、本当に安全に避難できるか心配
- ・訓練でも多くの方が参加され、実際にあつてはいいないが、十分役に立つことと思う
- ・大廻りし過ぎた
- ・連帯感を感じて良かった
- ・暗い時を経験してよかった
- ・実際の地震の時はパニックになると思う
- ・息子も近くに住んでいて声掛けしてくれた。
- ・参加者が少ないように感じました。
- ・日常的に、経路を頭に入れ、持ち出すものを近くに置いておく必要性を感じた
- ・避難バッグを忘れてしまったのでいけなかった。
- ・毎年行ってもらおうと、再見直しになり、非常用袋等の点検もできる。
- ・抜き打ちの訓練も必要と感じた
- ・町内だけでなく、市内全体で訓練する
- ・まだまだ課題があると思う。
- ・近所の人と知り合う機会になった。
- ・今後もやってほしい
- ・訓練と云えどやはり参加してよかった

2012/11/24・高浜市・津波避難訓練【田戸町の報告】

アンケート回答者数：139名（男59名・女80名）



●自宅を出るまでの課題（停電の中での対応や家族等との声掛けなどで感じたこと）

- ・転ばないように、はぐれないように声をかけ合う。
- ・暗い中での着替え
- ・準備が足りない 忘れもの多い
- ・今日は電気をつけて用意したから出来た。・暗闇だと行動できない。枕元に懐中電灯を置いておいたから助かりました。
- ・いつも照明用品を手の届く所に用意しておく
- ・防寒着が寝室にないので、着るまでが時間がかかった。特に子供の物はどこに脱いだか探した。
- ・家族間で、声をかけ合った
- ・電気をつけてしまった
- ・空き巣が入らないように 戸締り
- ・テレビを付けた。（時間確認で…）
- ・準備が遅かった。非常持出袋が出しにくかった
- ・小さい子はなかなか起きてくれない
- ・犬をつれてくるか、迷った
- ・一人暮らしなので、何かとお世話になります
- ・出るまでに時間がかかる
- ・明りが必要、持出袋を手近に置いておく。寒さに対するの衣服をまとめて置いておく
- ・どこに何があるか考えてあったので用意できた。実際は、身一つで出るかもしれない
- ・非常袋を探した
- ・ガスの確認 玄関を開ける
- ・避難場所よりも家の方が高いが…？
- ・いつも準備してるので特になし
- ・家に障がい者あり
- ・段差の多いので、足元には気を付けるように
- ・実際にそうなった時に慌てない様に冷静に対応したいと思う。
- ・みな起きていた
- ・足元 日頃の整理整頓が悪かった
- ・暗くて周りが見えない
- ・家族が居ない時があるので話し合いが必要
- ・朝が早いのでだまって来た
- ・停電の中で慌てると持ち物を探すのは大変

●避難場所に到達するまでの課題（危険と感じた箇所や出来事、移動距離の長さなど）

- ・瓦置場が不安
- ・今日は係の方が角、角に立っていてくれて誘導していたので、道も明るく、こわくなかった。
- ・道が暗い
- ・停電した時でも外灯がつくような外灯があれば心強いと思います。
- ・街灯が暗い為、足元が見にくい
- ・懐中電灯を持ってきたので特になかったが、もしそれがなければ大変だと思う
- ・家から大通りに出るまでが細い道だから、他の家が倒壊していたりしたら通れない。
- ・電柱など注意するものが色々あった
- ・瓦が落ちてると危ない
- ・父が足が悪いので歩いて来るのが大変だった
- ・広い道を通ってきたので問題はない
- ・道路の真ん中を歩く事※壁など端を歩かない
- ・ゆっくり歩いても大丈夫な距離だと思った
- ・南部デイへ入りたい。車イスなので。
- ・短い距離だけど長く感じた
- ・暗いので街灯がほしい
- ・今回は車が少なかったけど、昼間は不安
- ・ふれあい広場がわからないので、目印がわかりやすいと良いと思った
- ・工場等の大火災が近くで起きそう
- ・工場に積んであった物が倒れないかと思う
- ・老人の移動
- ・家から近いので助かったが、遠い人は大変
- ・階段を一人で降りられない人あり
- ・十字路など、停電だと怖いなと感じた。隣人の人たちと一緒に避難すると心強いと思った。
- ・母の腰が悪く老齢のため今回は不参加。本当ならおんぶしてでも行く。自分も体調の悪い時に果たして一緒に連れていけるか不安です。
- ・家から近いのでゆっくりとってしまった。
- ・周辺道路がせまく倒壊の心配、キケン！
- ・特別気にならない距離だった（250m 程）

## ●災害時要援護者への対応をした場合の課題

- ・見えたけど声を掛けずに参加した
- ・暗くて気付かないかも
- ・自分だけ避難するよりも時間も体力もかかると思うのでスムーズにできるよう訓練が必要。
- ・人でできなければ、他の人を呼んでくる
- ・安全を確認しながら行く
- ・とても混雑するので①何がどこでもらえるのか？どこで並べばいいのか？②もらうための手順があるのか？などわからなかった
- ・どのお宅に要援護の方がみえるかわかりません
- ・一人暮らしなのでよろしく願います
- ・車イスの人は避難後どうするのかを考えると連れてくるのを考えてしまう。少量のオムツは持参した。食事は半日我慢するがオムツ替え等
- ・自分の事だけになってしまう
- ・一人では出来ない事が多いと思うので周りの方との協力が大切。救護、援護を考える。
- ・声掛けなど
- ・今日できた事の何分の一しか出来ないのでは
- ・隣の年配の方と来たが、歩くスピードの違いを改めて感じた
- ・ヘルパーさんがいるとよい
- ・一声かけて、もし一緒に避難できるならしたい
- ・子供を連れていくと難しい
- ・当日ではもっと時間がかかるのでは
- ・声（大きな）で対応する
- ・近隣との声掛けが必ず必要だと思う
- ・しっかり誘導していただき助かる

## ●その他、全体を通して感じたこと

- ・体が不自由のため車で参加
- ・アピール不足
- ・訓練とわかっているので、恐怖感や緊張感がさほどなかったが、こういう機会は大切が必要。
- ・携帯、財布等をもってくるのを忘れた
- ・昨晚ある程度用意してあったから 15 分位で出られたけれど、そうでなければあきらめたかも。

- ・思ったより人が多く集まった
- ・たくさんの人の参加があって良かった
- ・訓練はやはり大切かと思います。一度も経験無しでは違いがあると思います。
- ・夜、行動するこの大変さがわかりました。※暗いと普通に出来る事が困難
- ・このままでも大丈夫かなと思った
- ・寒い中、つらかった
- ・朝の時間が早すぎる。昼間でも可能かと思いますが、暗い中での避難は意義があると思います
- ・避難袋を持って避難しました。
- ・早朝にも関わらず、結構な人が参加していた
- ・家族が残っている人がいた
- ・避難場所確認の為、参加した
- ・避難訓練を実際に行えば、避難箇所や道順がわかり良いことだと思った
- ・訓練に参加して良かった
- ・避難経路、場所の確認、町内会参加者とのふれあい等、被災時を想定出来た
- ・子供が少なく感じました
- ・今回は訓練なので、近隣への声掛けはしなかったが、家屋の中に残っている人がいるかどうか注意が必要
- ・避難場所がせまい。
- ・多くの方に参加していただくためにサイレン等を鳴らしてもいいと思う
- ・避難グッズなど平日頃からの準備
- ・避難区域を制限したらどうか
- ・訓練と実際とは必ず違うと思う
- ・年老が多く、若者の参加が少なく感じられた
- ・道が明るすぎる
- ・急ぐ必要があるが、あわてないことが大切
- ・ルートについてそれぞれ考える必要があると感じた。どこを通るとより安全か
- ・これからもやってほしい。続けたいといけない。
- ・家族全員が出席すると良い
- ・本当の災害時の対応を。検証が必要。
- ・一時的に集合する場所に一人もこなかった

#### ④ 高浜市「防災ネットきずこう会」事業成果報告会

□ 日時：2013年3月23日（土）9:00～12:00

□ 場所：いきいき広場2階 いきいきホール

□ スケジュール

9:00～9:05 開会の挨拶

9:05～9:40 「1年の取り組みの報告」

9:40～10:20 パネルディスカッション

10:20～10:30 休憩

10:30～11:50 基調講演「来るべき巨大地震に向けて」名古屋大学減災連携研究センター  
センター長 福和伸夫教授



2011年の東日本大震災の現実を目の当たりにしたことと、南海トラフ巨大地震の新想定で出された高浜市の厳しい予測を受けて、市民に正確な情報提供をして住民が自ら行動できる地域防災力向上を目指して取り組んできた「防災ネットきずこう会」の1年の活動について、地元ケーブルテレビが作成したDVDを使って高浜市より説明があった。

その後のパネルディスカッションでは、11月に行った津波避難訓練で中心的な役割を担った3名よりお話を聞いた。

#### ■パネルディスカッション

○福島伸一郎（碧海町町内会長）

今回の訓練は成功だった。冬の寒い日、雨降り、早朝、という経験したことがない条件だったため、町民の反応が心配だったが、事前の広報にも力を入れて、多くの人に参加してもらえた。しかし20～30代の参加が少なかったため、今後はその年代

にも積極的に参加してもらいたい。

○清水恵子（南部まちづくり協議会事務局）

豚汁の炊き出しを担当した。年末にやっていることなのでそれを参考に考えながら作った。今回は事前に準備がされていたが、本番1からやるのは大変だと思う。今後はもっと若い母親層を巻き込んでいきたい。防災食なども積極的に取り入れたい。

○神谷義国（南部まちづくり協議会事務局長）

震災が起きる前から防災に取り組んでいこうという動きはあった。今年度は「自分の身は自分で守ろう」ということで1年間活動してきた。何とかして若い世代を助けたいと思っている。今年度は1,2歩くらい進んだが、まだまだこれから試行錯誤してやっていくことが地域の仕事だと思う。

○コーディネーター 栗田暢之（レスキューストックヤード代表理事）

1年間の取り組みで当方もたくさん学ばせていただいた。来年もひとりでも多くの方に意識を持ってもらえるよう継続していきたい。

●基調講演「きたるべき南海トラフ巨大地震に向けて」

講師 名古屋大学減災連携研究センター  
センター長 福和伸夫教授

高浜市に来てまず駅周辺を歩いてみた。駅前にコンビニがなく、駅を使う人が少ない、つまり車の町であると感じた。碧海町は埋立地であり、先端には火力発電所がある。昔は水力発電など安全なものを使っていたが、現代人は知らず知らずのうちに火力発電等の力に頼り切った生活をしているのである。また高浜市役所の立地としては水に浸かる心配はないようだが、耐震性は心配だ。なぜ耐震化してこなかったのか。小学校の耐震をす

る以前に、災害時の拠点となるべく市役所の耐震化を市民が後押しするくらい意識を高くもってほしい。防災部局は2階、市長は3階の6階建ての建物である。もしも市役所が潰れてしまったら、行政を頼ることが全くできないことが前提での復旧・復興になってしまう。現代日本では公私のバランスが崩れている。何を優先させるべきか、次世代に何を残すのか、今一度考えてほしい。

また、堤外地に住むということがどういうことかも今一度考えてほしい。名古屋市内では30年前に作った堤防は砂でできているため崩れる可能性も高い。高浜市はどうか。堤防が崩れると浸水して道路が通れなくなる可能性がある。また埋立地は液状化するため、ガスや水道管も壊れる可能性が高い。本当に避難できるだろうか。そして多くの地域においてガス・水道が長期間使えなくなった時、すぐに修理がきてくれるかどうか、事前に話しておく必要があるのではないかと、災害が起きた後は大変厳しい状況になる、そんなことも頭に置いておいてほしい。

高浜市の消防署職員は30名、そのうち日々の任務にあっているのは10名程度、救急車は1台しかない。この現実から災害時なるべく怪我をしないようにする必要があることがわかる。そのためにもまずは自宅の耐震化をしなければならない。やはり事前にどう備えるかを考え、次世代がどこに住むべきかを考えていかなければならない。

東日本大震災は陸から離れた場所で起きた地震だったのであれだけの被害だった、ともいえる。また東北地方は明治三陸津波から数えて4回目の地震だったため、津波に対する防災意識も高かった。宮城県沖地震の可能性も叫ばれていたため、耐震化も進んでいた。さて、そこで私たちの地域に来ると言われている南海トラフ巨大地震について考えてみたい。この度の新想定によると経済被害は220.3兆円である。東日本大震災が16兆である。そして10万人が犠牲になるとの予測だ。実は

もっと大きな被害が出るとも言われている。津波がすぐに押し寄せる地域もある。果たして逃げられるのか。高浜市では震度7の揺れが来ると言われている。本気になって、まずは揺れにどう耐えるかを考えなくてはならない。生き残ったことを前提としての訓練ではなく、まず揺れに耐えることに全力を注ぎ、それから避難のことを考えてほしい。なんとか避難できたとしても、その後、地域住民全員が避難所に入れないことも覚えておいてほしい。そのためにも丈夫な土地に丈夫な家を建てて備える必要がある。昔の人たちはきちんと住む場所を考え、安全な土地に住んでいた。いつの日からか日本人は危険なところにも住み始めたのだ。本来の生物の役割は自分の命を失ってでも次の世代をまもっていくということだった。それを忘れてきてしまったのだ。そのことを大人たちはきちんと受け止めて考える必要がある。

現代日本では、特に東京の人口集中が異様である。東京も大阪も高い建物を次々に建ててきた。愛知県は人口密度も少なく、一家族における子どもの数も多い。また持ち家が多いのも特徴で、庭があればトイレも困らない。農業も製造業も頑張っている。ぜひ若者には安全な場所に住んでもらいたい。「人生の節目に高台へ」危険を避けて、個々人が備え、自ら逃げ、助け合う意識を持つことが減災のまちづくりである。

